

庄内農家の友

Vol.993 / R6.12.1

2024

12

December

全農
ちとびく

URL <https://www.zennoh-yamagata.or.jp/>
E-mail: sysmah@yt.zennoh.or.jp



表紙写真コンクール入選 雲ただよう 石崎 幸宏さん (庄内町狩川)

Contents

- 稲作 P2-3 信頼ある産地は安定供給から！ ～米穀情勢および県産米の販売状況について～
- 稲作 P4-5 令和6年 庄内稲作の振り返り
- 園芸 P6-7 育苗ハウスを利用したシャインマスカット栽培の振興について

JA全農山形

発行所 / 全国農業協同組合連合会 山形県本部 (JA全農山形)
〒990-0042 山形県山形市七日町三丁目1番16号 TEL023-634-8133
印刷所 / 庄内農村工業農業協同組合連合会
発行人 / 長谷川 直秀

今ならお得なチャンス! はじめようスマート農業キャンペーン

日々の作業を
効率化しませんか?

2024年12月1日 ▶ 2025年3月31日

営農情報を地図で可視化!

Z-GIS

全農 営農管理システム



入会者 (新規のみ)

利用料 無料

ご加入から4カ月目まで
例: 2月15日申込の場合、5月末までの利用料が無料

申込みは
Z-GISホームページ
または専用申込書から



Z-GIS 初級者向け WEB講習会開催

キャンペーン期間中の入会者向けZ-GISの初級WEB講習会を開催
1月16日、1月23日、2月13日、2月20日 ※すべて16:00~17:00

12月から
毎月開催!
メールで
ご案内

Z-GIS 全農 営農管理システム でできること

- 1 管理項目別に色分けや抽出が可能!
- 2 管理項目を地図上に表示!
- 3 1kmメッシュ気象情報を確認可能!
- 4 スマホからも簡単入力可能!

利用料金は、100圃場ごと月額220円(税込) 費用を抑えて圃場管理が始められます!

【お問合せ】JA全農耕種総合対策部スマート農業推進課 TEL03-6271-8274 ✉ zz_zk_smart@zennoh.or.jp

JAグループ 全農

『庄内農家の友』 廃刊のお知らせ

ご愛読いただきありがとうございました『庄内農家の友』は、諸般の事情により、2025(令和7)年3月号をもちまして、廃刊させていただくこととなりました。当誌は1949(昭和24)年5月に創刊以来、庄内域における農業情報をお伝えしてまいりました。これまでのご愛読への感謝を胸に、最終発行号まで紙面の充実に努めてまいります。変わらぬご理解とご支援をお願い申し上げます。

信頼ある産地は安定供給から!

～米穀情勢および県産米の販売状況について～

JA全農山形 米穀部 消費地総合販売課 齋藤 一磨

米穀情勢

①令和6年産米の作柄概況について(表1)

10月25日現在の水稲の作柄は、北海道、東北、関東・東山、沖縄が作況102(103の「やや良」、北陸近畿、中国、四国、九州が作況99(101の「平年並み」、東海が作況96の「やや不良」となっております。全国の10aあたりの予想収量は540キログラム(前年産+7キログラム)と見込まれており、全国の作況は102の「平年並み」となっております。山形県の令和6年産水稲

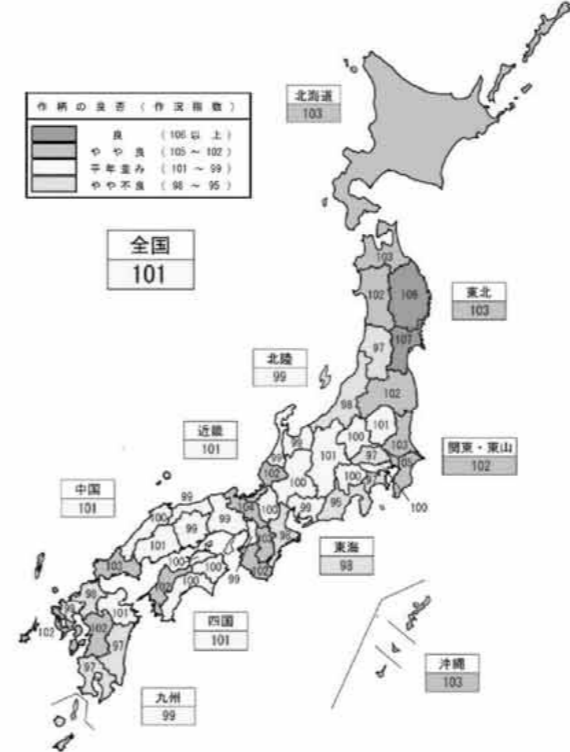


表1.令和6年産作柄概況(10月25日現在 農水省)

作付面積は6万6800畝(前年産▲600畝)、うち主食用作付面積は昨年同数の5万2400畝が見込まれます。作柄は、令和6年7月豪雨の被害を受けた庄内、最上が作況94の「不良」、村山、置賜が作況100(101の「平年並み」、県全体の作況は97の「やや不良」となっております。また、山形県の10aあたりの予想収量は583キログラム(前年産▲20キログラム)と見込まれ、日照不足により、全もみ数が平年に比べ「やや少ない」となったものの、登熟が平年並み以上となったと

見込まれたためです。これらのことから、山形県の主食用の予想収量は30万5500トとなり、前年産に比べ3100トの減少が見込まれております。

②需給見通しについて(表2)

令和6年6月末民間在庫量は、前年から44万ト減少の153万ト(確定値)となり、在庫数量の適正水準とされている180万ト(200万ト)範囲を大きく下回っております。

表2.今後の需給見通し(10月30日 食糧部会)

令和5年6月末民間在庫量	A	197
令和5年産主食用米等生産量	B	661
令和5/6年主食用米等供給量計	C=A+B	858
令和5/6年主食用米需要量	D	705
令和6年6月末民間在庫量	E=C-D	153
令和6年産主食用米等生産量	F	683
令和6/7年主食用米等供給量計	G=E+F	836
令和6/7年主食用米需要量	H	674
令和7年6月末民間在庫量	I=G-H	162

注1:上記の見通しは、国内で生産された主食用米等の需給見通しでありSBS方式による輸入米は含まれない。

注2:ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。

また、令和6/7年の見通しでは、需要量が674万ト(速報値)、令和6年産の生産量が683万トと見込まれており、差し引きから、令和7年6月末民間在庫量は162万トと試算され、引き続き需給環境が継続することが予想されます。

令和5年産から令和6年産米の端境期においては、8月以降、一部の量販店の棚に精米が置かれなくなり、8月中旬から9月中旬にかけては、消費地の広い範囲で店頭から精米が無くなる事象が発生しました。これは、猛暑の影響による令和5年産米の一等米比率と精米歩留まりの低下、堅調な家庭用需要の継続、インバウンドを含む業務用需要の回復により、想定よりも主食用米の需要が増加したことが要因としてあげられていきます。加えて、南海トラフ地震臨時情報の発表や台風7号の上陸など、8月に発生した天災も重なったことが特殊な要因としてあげられていきます。

り、それは生産者の皆様のたゆまぬ努力の賜物であると思っております。米穀卸からは、固定客が離れない銘柄であることから非常に高い評価をいただいております。消費者の方々からは、「毎日つや姫を食べてます!」「本当に美味しいお米だね!」といった非常に嬉しいお言葉をいただくことが多数ございます。

しかしながら、依然として他県産高価格帯銘柄は飽和状態にあることから、「つや姫」ファンのさらなる獲得を目指して引続きPR活動に取り組む、生産者の皆様の努力を販売に繋げられるようつとめてまいります。



写真.つや姫レディの販売風景

まとめ

全農山形県本部では、生産者をはじめ、関係各所の努力の結晶である「山形県産米」を、皆様の想いと一緒に関国の消費者へお届けするため、これからも販売に邁進してまいります。変動する作柄や市場動向に左右されない安定取引には、実需・米穀卸の信頼に応えることが重要であると、信頼ある産地であり続けるためには、安定供給が重要です。

今こそ、オール山形として「集荷結集」へのご協力を何卒よろしくお願いたします。

「雪若丸」の販売状況については、以下のとおりとなっております。

「はえぬき」

「はえぬき」は、ブレンド特性に優れ、「炊き増え率」「味度値」「食味値」が高く、大手コンビニ、回転寿司、駅弁などの業務用としても広く採用いただいております。他県銘柄では代用の利かない大事な存在となっております。

「つや姫」

「つや姫」は、今年でデビュー15年目を迎えます。全国有数のトップブランド米としての地位を確立して

今年で本格デビュー7年目を迎える「雪若丸」は、人気俳優を起用したCMやインフルエンサーによる各種SNSへの掲載、大手レシピサイトや料理教室とのコラボなど、他県銘柄にはない独自の広告宣伝を実施しております。家庭用はもちろんのこと、業務用としての販売も増えており、実

③山形県産米の販売状況

山形県産米の主要銘柄である「はえぬき」「つや姫」、

令和6年 庄内稲作の振り返り

庄内たがわ農業協同組合 三川支所 梅津茂雄

はじめに

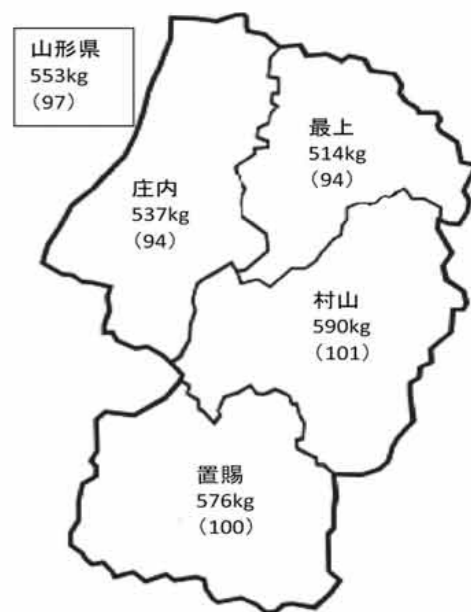
令和6年産の米価は全国的に大きく跳ね上がりましたが庄内地域の作況指数は94の「不良」となりました。本年稲作において特筆すべきところは、7月25～26日にかけての「豪雨」により、長時間に及ぶ浸・冠水したことによる収穫量への影響が考えられます。本年の稲作を振り返り、来年の稲づくりへの参考としましょう。

① 作柄概況について

10月25日現在の作柄概況は、全国「101」、東北「103」、山形「97」となっていますが、庄内の作柄（東北農政局、令和6年11月9日公表）は537kgであり（平成570kg、1・9リットル）、作況指数は、94の「不良」となりました。（図1参照）

近年では平成23年に作況指数97「やや不良」、平成30年に95「やや不良」がありました。本年はさらに低い作況指数となっています。ちなみに8月15日現在の山

図1. 作柄表示地帯別10a 当たり予想収量(10月25現在) ()内は作況指数 (1.90mmふるい目幅ベース)



農林水産省(東北農政局)公表資料より抜粋

形県では山形は「やや良」の見込みでしたが、これは以降の気象が平年並みに推移し、登熟も並みであると推定しているためです。本年においては籾数の不足や稲体の活力低下による登熟不良もあったのではないかと考えられます。

② 生育状況について

初期生育については圃場間差が多く見受けられました。分げつ期における生育調査では平年並みの生育量を確保している圃場もあつた一方で、7月上旬の穂肥の現地巡回では、茎数がやや不足し、葉色が濃く遅な

おり型の圃場が散見されました。

7月の気象は、日格差が小さく、降水量が多く、日照が少なく、推移しました（図2参照）。そのため葉色が濃く、草丈も長く、また、7月25～26日の豪雨による圃場への浸・冠水と相まって出穂に向けての稲の状態は良くなかったのではないかと考えられます。

出穂期は7月上旬には平年より「やや早い」見込みでしたが、7月の気象の影響により、ほぼ平年並みの出穂となりました。

最終的な稲の仕上がりは、稈長が長く、穂数は並み、やや少ない、m当たりの籾

数は並み、やや少ない、籾の大きさは並み、特徴的な点としては、草丈が長く、止葉が長くなった点が挙げられると考えます。

③ 作柄「不良」の要因について

6年産における収量低下の要因について考えてみます。

① 稲体の充実・収量構成要素の不足

7月から8月中旬にかけて気温の日格差が小さくなっていきます（最低気温が高い）。これにより日中の光合成により得たデンプンを稲体に蓄積することが難しくなります。また、7月には日照が不足(30%減)しています。この時期は穂を形成する時期でもあり、稲体の充実不足に加え、籾数の減少にも影響があったでしょう。

② 7月下旬の浸・冠水による影響

今回の豪雨災害の時期は稲の生育ステージでは「穂ばらみ期」といい穂が出る直前のタイミングでした。

各調査・研究資料に於いてこの時期の浸・冠水が水稲の減収に及ぼす影響が大きいことが報告されています。

水稲の収量への影響は水位が高く、滞水時間が長く、水の濁りが多くなるにつれて収量への影響が大きくなると報告されており被害としては籾数の減少(退化)、不稔(未熟米、しいな)の増加、発育の停止をもたらすとされ、併せて稲体の損傷や活力低下により病害虫の被害を受けるリスクも高まります。

上記、①、②などの事から全粒重量が不足し、さらには千粒重も軽くなってしまったことにより減収につ

ながったものと考えられます。

参考に当地域のカントリーエレベーター(共乾施設)の10アール当たりの収量を掲載します(表1)。このカントリーエレベーターの収量調査においても「穂ばらみ期」のタイミングに浸・冠水被害を受けた品種ほど収量への影響が大きかったことが確認できます。

④ 病害虫・雑草の発生について

① 紋枯病

特に東側の畦畔際を中心に紋枯病の症状が多く見受けられるのが特徴です。今

② 雑草

例年発生が多いヒエとホ

年は7月の長雨と豪雨による圃場への浸水や冠水の影響もあり紋枯病の発生が助長されたものと考えられます。特に平年に比べ止葉まで病斑が進展した稲株もあり、少なからず収量への影響があつたものと考えられます。ただし、防除の必要性については、病害の発生状況(要防除水準に達しているか)を踏まえ対応を検討する必要があります。

また、防除のタイミングも重要でありますので、営農指導員と相談し防除の必要性を確認して対応する事が重要です。

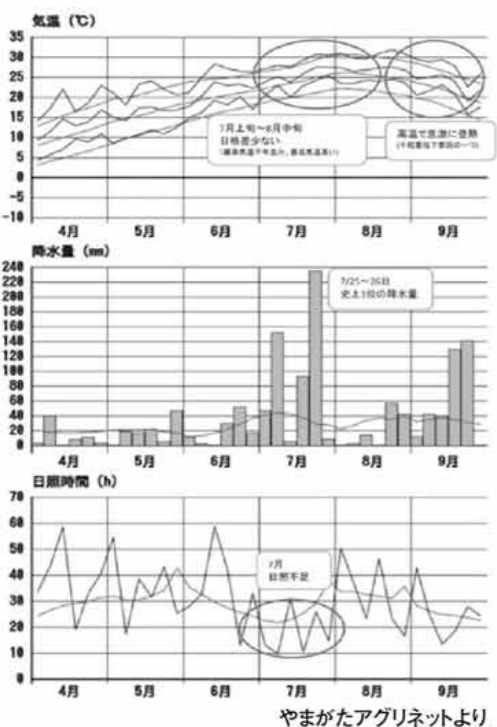


図2. アメダス鶴岡の気象図

対象期間(2024年1月1旬~2024年9月6旬)

(単位: kg/10a)

年産/品種	はえぬき	雪若丸	つや姫
R6	533	571	559
R5	600	645	589
R6-R5	▲ 67	▲ 74	▲ 30

表1. 当管内共乾施設における収量

これら雑草の繁茂はカラムシによる斑点米被害を助長しますので、圃場内の雑草の対応は大変重要です。圃場における雑草の発生は例年より多く見受けられ除草剤の散布時期や使用方法について検討し、雑草の取りこぼしが無いよう、圃場の管理に努めて行くことが必要と考えます。

来年度の防除におけるポイントには、「遅れずに早め散布が重要です」。近年の気象状況により雑草の発生時期が早まっています。それに加えて表層剥離などが発生することによって除草剤の拡散が阻害され、除草剤の効果が発揮できていない圃場が多く見受けられます。初期除草剤の特徴(残効や使用タイミング)なども十分考慮した上で、初中期一発除草剤まで上手くつなげたいものです。

⑤ 玄米品質について

当農協の11月21日の主食

⑥ 次年度に向けて

毎年のように異常気象が発生します。気象変動が大きい条件下に於いては、基本技術の励行が大変重要となります。稲作に於いては特に初期生育を確保することが重要となり、中干しによる根量の増加と稲の受光体制を意識した稲姿に仕上げていくことが重要と考えられます。毎年発生する課題を検討・整理し、その課題を一つずつクリアしていくことの積み重ねが収量の安定性につながります。農協としても関係機関と連携しながら稲の生育ステージに合わせてタイムリーに情報を発信していきます。来年度産米が素晴らしいものになりますように。

育苗ハウスを利用した シャインマスカット栽培の 振興について

庄内みどり農業協同組合 営農販売部 園芸課 五十嵐 雄二郎

はじめに

当JAでは平成29年度より新たに生産拡大を目指す園芸品目に対し、新設する園芸用ハウス等の費用の一部を支援する、園芸生産拡大支援事業（現施設園芸生産拡大支援事業）を実施し、その中の対象品目の一つとしてシャインマスカットを推進してきました。今回は当JAのぶどう振興の取り組みについてご紹介いたします。

栽培の概要

水稲育苗ハウスを利用したぶどう栽培は、新潟県農業総合研究所園芸研究センターで確立された技術で、遊休期間の長い水稲育苗ハウスを有効利用するため、ぶどうの短梢剪定栽培を行う技術です。水稲育苗は通常通り実施し、育苗箱を搬出した後にぶどうの枝葉が伸展してくるため、両者を合わせた栽培方式が可能となります。費用の面では、既存のハウスを利用するために、導入にかかるコスト

も安価で取り組みやすいのが特徴です。また、短梢剪定は、ぶどう栽培で最も難易度の高い剪定作業をマニュアル化でき、新規の栽培者にも取り組みやすいというのも特徴です。

実証圃での栽培講習会の開催

当JAでは平成29年にシャインマスカットの苗木85



図1. 短梢剪定を行ったシャインマスカット

本をハウス6棟へ植栽し、実証圃として栽培管理を行ってきました。栽培期間中のGA処理や、仕上げ摘粒などの主要作業の時期には実証圃を会場としての栽培講習会を年6回ほど開催しています。講習会では酒田農業技術普及課より講師を派遣していただき、実際の生育を確認しながら、分かりやすく説明をしていただいています。また、専門の

職員が常駐しているため、栽培管理上の疑問があった際に気軽に相談できる状況となっております。

ぶどう出荷組合の設立

令和3年度からの本格的な出荷の前に、ぶどう栽培技術の向上と組織出荷体制による、共同販売事業を推進し、農家経営の安定を図ることを目的として「JA



図2. GA 処理及び房作り講習会

な需要があるか、出荷の時期はいつが良いのかということを確認することができました。出荷先との情報交換を密に行い、有利販売につなげていきます。③赤、黒系品種の導入。現在ぶどう出荷組合ではシャインマスカットが主な品種となっ

ていますが、赤、黒系の品種の導入が求められています。しかし、短梢施設栽培で導入できる品種が中々見つからない現状です。まずは、シャインマスカットの栽培技術を向上させ、その後に有望品種を導入していきたいと考えています。



図3. シャインマスカット品評会

のレベルも高くなっています。今後消費者に選ばれる産地となるために、次のことが必要と考えます。①出荷組合全体の栽培技術の更なる研鑽。引き続き講習会を通じて、現地圃場への巡回指導を強化し、出荷に至るまでのフォローアップを行うようにします。②出荷先との関係強化。今年の出荷組合の先進地視察研修では関東市場への研修を行いました。その中で、どのよう

今後の課題

現在、シャインマスカットは全国的に栽培されており、販売単価も一時期に比べて安価になっています。また、消費者の求める品質

が増え、品評会のレベルは上がっています。当品評会の受賞者には来年度の山形県JA園芸振興協議会主催の「山形県ぶどう「シャインマスカット」品評会」への出品をしていただく予定です。



図4. 市場との販売会議の様子